

令和2(2020)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和2(2020)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

今年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、実施の可否は学校に任されていましたが、本校では、児童の学習状況を見取るため、期日を遅らせ例年どおりの調査方法で実施しました。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和2(2020)年7月1日(水)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語 80人 算数 80人 理科 80人

第5学年 国語 90人 算数 90人 理科 90人

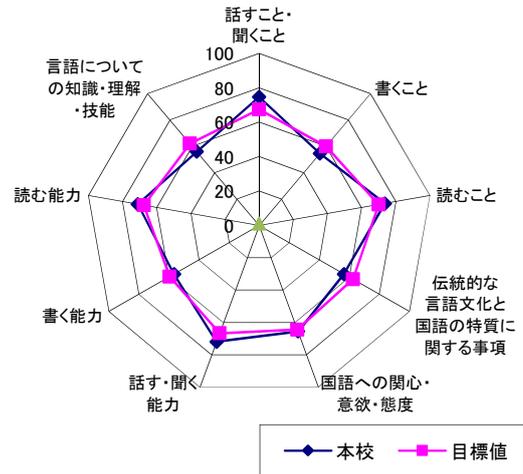
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。また、今年度は学校裁量に伴う実施のため、県や市の平均正答率ではなく、到達してほしい目標ラインを記載した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	話すこと・聞くこと	74.7	67.5
	書くこと	54.6	60.0
	読むこと	73.6	70.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.4	62.5
観点	国語への関心・意欲・態度	65.5	64.4
	話す・聞く能力	71.9	66.7
	書く能力	56.7	59.6
	読む能力	71.0	67.5
	言語についての知識・理解・技能	56.0	62.1



★指導の工夫と改善

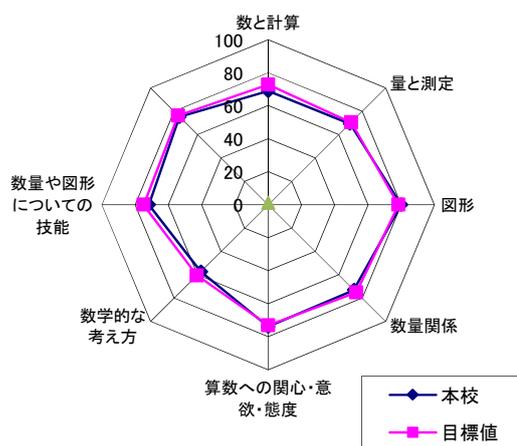
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、74.7%と目標値より高い数値である。 ○「放送を聞き取り、話し方の工夫を考える」問題については、正答率が76.3%で、目標値より6.3%高い。 ○「インタビューでの尋ね方を問う」問題については、正答率が60.6%で、目標値より10ポイント以上高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、ただ発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や質問する力、工夫していたことを聞き取る力など、課題を与えて取り組ませていくことで、さらに聞く力を高めていく。 ・スピーチや発表についての指導では、「まず」「次に」や「例えば」など、伝え方やその効果について今後も継続的に指導するようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、54.6%と目標値より低い数値である。 ○「理由や事例を挙げて作文を書く」問題では、63.8%であり、目標値より8.8ポイント高い。 ●「インタビューの感想を伝え合う」問題では、正答率が50.0%であり、目標値より10ポイント低くなっている。 ●「指定された長さで作文を書く」問題では、正答率が37.5%であり、目標値より22.5ポイント低くなっている。 ●「2段落構成で文章を書く」問題では、正答率が47.5%であり、目標値より7.5ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の項目において、内容は劣っていないが、形式に合わせた書き方に課題がある。日々の授業の中で、段落構成や文字数など指定することで、問題形式に慣れさせていく必要がある。 ・類似問題を解くことで、指定されていることをどのように表現していくかを確認していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.6%と目標値と同程度である。 ○「目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取る」問題では、正答率が90.0%であり、目標値より10ポイント以上高くなっている。 ●「段落の内容を理解して読み取る」問題では、正答率が58.8%であり、目標値より6.2%低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週読み取りプリントを行っている。今後も継続的に読むことに慣れさせていくことで、抵抗なく問題に取り組めるようにする。 ・授業において、人物の気持ちをどの叙述から読み取れるかを明確にしなが、読み取っていくようにする。 ・説明文などでは、段落の内容を要約することを取り組ませ、内容が理解できるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、56.4%と目標値より低い数値である。 ○「国語辞典の使い方に関する」問題では、正答率が78.8%、58.8%であり、目標値より18.8ポイント、8.8ポイントそれぞれ高くなっている。 ●「漢字を書く」問題では、正答率が52.7%であり、目標値より12.3%低い。 ●「漢字を読む」問題では、正答率が57.9%であり、目標値より10.4%低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に漢字の習得に課題があるので、漢字ミニテストや下学年の復習を繰り返し行うことで、定着を図る。 ・今後も継続的に文法プリントなどを実施することを通して、基礎的な力の定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	数と計算	68.9	72.9
	量と測定	69.5	70.6
	図形	80.0	78.3
	数量関係	73.0	75.0
観点	算数への関心・意欲・態度	73.8	73.1
	数学的な考え方	57.2	60.6
	数量や図形についての技能	71.7	74.9
	数量や図形についての知識・理解	75.5	76.5



★指導の工夫と改善

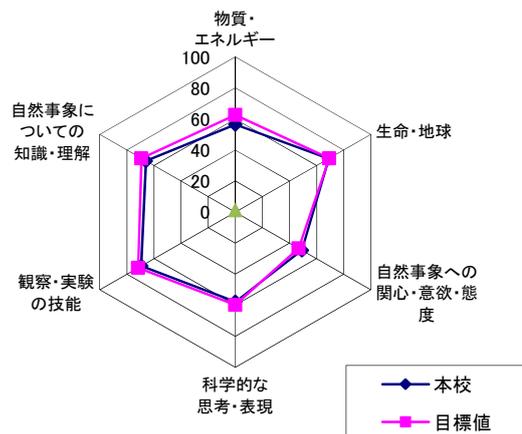
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、68.9%と目標値と同程度である。 ○「整数－小数第一位の計算」については、正答率が66.3%で、目標値より10ポイント以上高くなっている。 ●「2けた×1けた」「2けた×2けたのかけ算」については、正答率がそれぞれ67.5%、60.0%であり、目標値より10ポイント以上低い。 ●「小数の大きさ」「分数の大きさ」を答える問題については、正答率がそれぞれ68.3%、45.0%であり、10ポイント以上低い。 ●「文章問題を解くためにわり算の式を立てる」問題では、正答率が73.8%であり、目標値より6ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算の筆算の仕方についての確認をして、理解を深めた上で、位取りを意識して正確に計算できるように、繰り返し計算練習に取り組み定着が図れるようにする。 ・小数や分数の数の大きさについて、4年生の学習内容の中にも出てくるので、その都度、既習事項を確認して定着を図る。 ・問題の意味を正しく捉えることができるように、問題場面を図を使って表すように指導していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69.5%と目標値と同程度である。 ○「地図から道のりを読み取ってその和や差を求める」問題では、正答率が82.5%、71.3%と目標値よりそれぞれ12.5ポイント、6.3ポイント高い。 ●「2つの時刻を比較してその間の時間を求める」問題では、正答率が、72.5%であり、目標値より7.5ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過について理解が深められるように、時計の模型を使って繰り返し練習に取り組んだり、日常生活で時間を意識させたりして定着が図れるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、80.0%と目標値と同程度である。 ○「箱の入っているボールの直径を求める」問題では、正答率が86.3%であり、目標値より11.3ポイント高い。 ●「二等辺三角形を作図する」問題では、正答率が73.8%であり、目標値より11.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の学習では、三角定規やコンパス、分度器の使い方を丁寧に指導する。図形の特徴について確認し、理解を深めた上で、作図する問題に繰り返し取り組み、定着を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.0%と目標値と同程度である。 ○「□を使った文章問題を表した図を選ぶ」問題では、正答率が88.8%であり、目標値より8.8ポイント高い。 ●「□を使ったかけ算の式に合った文章問題を選ぶ」問題では、正答率が36.3%であり、目標値より18.7ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を正しく読み取るために、文章問題を図に表すように指導していく。また、ノート指導を大切に、自分の考えを言葉や図を使ってまとめる時間を確保し、文章力を高められるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	物質・エネルギー	56.3	62.5
	生命・地球	69.0	69.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	49.2	46.7
	科学的な思考・表現	57.7	59.7
	観察・実験の技能	69.4	71.7
	自然事象についての知識・理解	65.9	69.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、56.3%と目標値より低い数値である。 ○「風の強さを変えたときの玉の飛び方を推測する」問題については、正答率が41.3%で、目標値より6.3ポイント高くなっている。 ●「日光をはね返す鏡の枚数と温度の関係を推測する」問題については、正答率が75%で、目標値より10ポイント低くなっている。 ●「電気を通すものが金属であることを理解する」問題については、正答率が28.8%で、目標値より31.2ポイント低くなっている。 ●「磁石の性質に関する」問題については、正答率が37.5%、47.5%であり、目標値より12.5ポイント、7.5ポイントそれぞれ低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語を丁寧に覚え、知識の定着を図る。 ・物質やエネルギーの変化が分かりやすくなるよう、実験の手順を丁寧に確認してから実験する。 ・実験の手順や結果を分かりやすくまとめ、知識の定着を図られるよう指導していく。 ・生活と結び付けた実験方法と考察を指導する。 ・理科の時間はもとより、様々な教科で文章を書く活動を積極的に取り入れ、問題の意図を汲んで適切に答える力を付ける。 ・「電気の通り道」についての正答率が大幅に低かったため、実験結果をあらためて確かめさせたり、フォローアップシートを活用したりして、復習を行う。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69%と目標値と同程度である。 ○「ダンゴムシのすみかの特徴を理解する」問題については、正答率が100%で、目標値より15ポイント高くなっている。 ○「太陽の働き方から花の苗を植える適切な場所を推測する」問題については、43.8%で、目標値より13.8ポイント高くなっている。 ●「ホウセンカの育つ順序について理解する」問題については、正答率が53.8%で、目標値より11.2ポイント低くなっている。 ●「モンシロチョウがたまごをどこにうむかを理解する」問題については、正答率が70%で、目標値より10ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語を丁寧に覚え、知識の定着を図る。 ・動植物の育ち方について、実際に観察できる時期と学習できる時期のずれが生じてしまうこともあるため、写真や動画なども活用し動植物の育ち方について正確な知識の定着を図る。 ・「植物や昆虫の育ち方」についての正答率が低かったため、フォローアップシートを活用するなどして復習を行う。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の質問への肯定的回答は9割を超えている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答は8割を超えており、市や県と比べて9ポイント以上高い。『勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある』の肯定的回答も、8割を超えており、県と比べると8ポイント高い。学校内で共通理解を図って取り組んできた目標の提示と学習したことへの振り返りにより、児童の学習内容への関心も高まっていることが分かる。

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の質問への肯定的回答は8割を超えており、市や県と比べても8ポイント以上高い。学習に対して前向きに取り組む、学習習慣が身に付いてきていることが分かる。

○「人と話すことは楽しい」「だれに対しても思いやりの心をもってせっている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の質問への肯定的回答の割合は、9割を超えている。友達と良好な人間関係を築いていることが分かる。

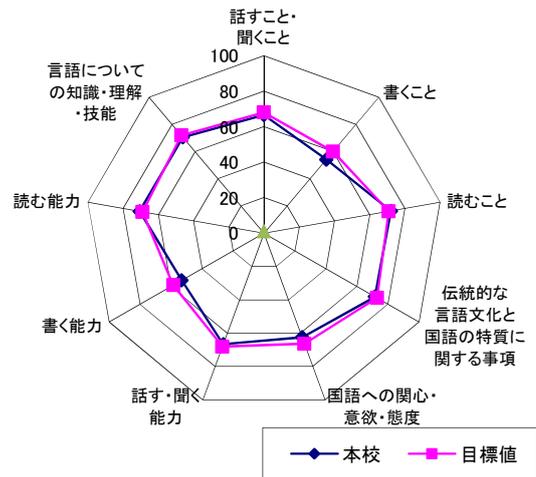
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問への肯定的回答は5割以下であった。自分の考えを発表することに対して苦手意識をもっている児童が多い傾向がある。自分の考えに自信をもって発表できるように、自分の考えをもつ時間を十分にとったり、全体の前だけでなくグループやペアなど、発表の形態や機会を増やしたりするなどして苦手意識の軽減を図っていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の質問への肯定的回答は約4割であった。授業で、図書室の本や情報機器を活用する機会を増やすなどの取組をしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	話すこと・聞くこと	66.6	68.0
	書くこと	54.2	60.0
	読むこと	72.0	70.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	73.0
観点	国語への関心・意欲・態度	62.4	66.3
	話す・聞く能力	66.6	68.0
	書く能力	53.2	58.5
	読む能力	70.6	68.9
	言語についての知識・理解・技能	70.6	71.9



★指導の工夫と改善

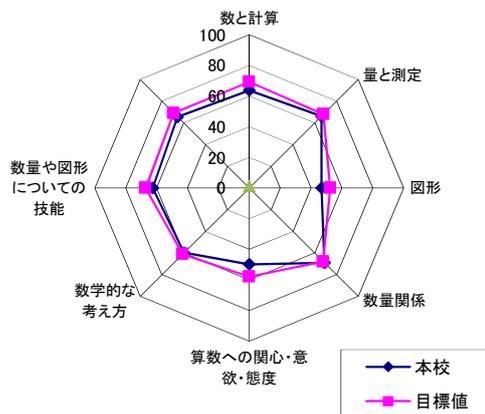
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、66.6%と目標値と比較して同程度である。 ○互いの考えの共通点を考えて話し合う問題では、目標値を4.4ポイント上回り、全国の正答率よりも11ポイント高い結果となっている。 ●話し方の工夫に注意して聞き取る問題では、正答率が76.7%で、目標値と比較すると8.3ポイント低くなっている。 ●司会の役割として参加者の発言の共通点をまとめる問題では、正答率が38.3%で、目標値よりも11.7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や発表会を行う際は、目的意識をもって相手に分かりやすく正確に伝える工夫について考える機会を設けていく。 またその際に司会の役割を確認し、出てきた意見の共通点を見付けたり、建設的に意見をまとめたりする活動を取り入れることで、話すこと・聞くことの力の向上を目指す。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、54.2%と目標値と比較して低い数値である。 ●指定された長さで文章を書く問題では、正答率が55.6%で、目標値と比較すると9.4ポイント低くなっている。 ●自分の意見を明らかにして文章を書く問題では、正答率が47.8%で、目標値と比較すると7.2ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の単元を行う際は、文章全体の構成を考えながら、指定された長さで的確に要点を捉えた文章を書く練習に多く取り組んでいく。 ・資料を活用する単元では、資料から分かったことを正確に読み取り、それに対する自分の意見を常にもてるような授業を実践していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、72.0%と目標値と比較して同程度である。 ○文章の内容を的確に読み取る問題では、正答率が91.1%で目標値より6.1ポイント高くなっている。 ●段落の役割を理解し、文章の内容を的確に読み取る活動では、正答率が46.7%で目標値と比較すると3.7ポイント低い結果となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文を取り扱う際には、段落の構成やその働きについて考える活動を多く取り入れ、文章の的確な読み取りに繋がるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、71.6%と目標値と比較して同程度である。 ○漢字辞典の使い方の問題では、正答率が75.6%と高く、目標値よりも5.6ポイント高い結果となっている。 ●漢字の書きの問題において、正答率と目標値を比較すると「失敗」では12.8ポイント、「帯」では8.9ポイント下回っている。 ●連用修飾語の理解の問題では、2問中、どちらも校内の正答率は目標値よりも下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元ごとに小テストを取り入れることで、基礎的事項の徹底に努める。 ・修飾語を取り扱う際は、日常生活の具体的な場面と関連付けて、より身近なものとして、活用していけるよう指導していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	数と計算	63.7	69.2
	量と測定	66.2	68.0
	図形	46.9	52.5
	数量関係	68.9	67.9
観点	算数への関心・意欲・態度	49.8	57.9
	数学的な考え方	59.7	61.0
	数量や図形についての技能	62.5	67.0
	数量や図形についての知識・理解	65.6	69.1



★指導の工夫と改善

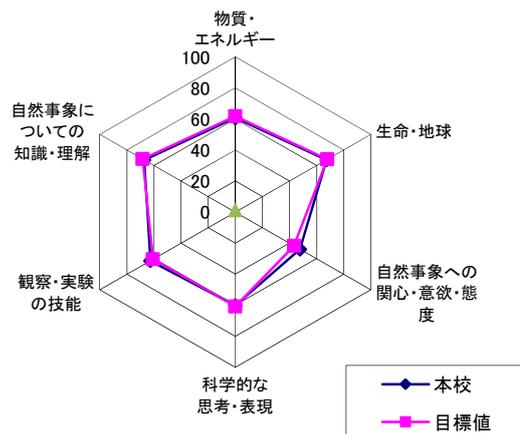
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、63.7%と目標値と比較して5.5ポイント低い。 ○「わり算」の2つの数量関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題では、73.3%と正答率は高い。 ●「小数×整数」の計算では、正答率が62.2%、「小数÷整数」の計算では、正答率が42.2%で、どちらも目標値と比較して17.8ポイント低くなっている。 ●千の位までの概数の表し方を問われる問題では、正答率が54.4%で、目標値より20.6ポイント低くなっている。 ●わり算の計算とその答え、さらに、あまりの処理の考えを使って説明する問題では、正答率が14.4%と低く課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍とわり算の問題は、日頃から図を用いて考える習慣が付いている成果であると考えられる。今後も、図や数直線を用いて考えるように指導を継続していく。 ・小数のかけ算とわり算の計算については、朝の学習の時間に復習プリントに取り組みせ、計算力を高めていく。 ・概数の表し方については、5年生の学習内容の中にも出てくるので、その都度、既習事項を確認して定着を図る。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、66.2%と目標値と比較して同程度である。 ○「角の大きさ」の分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を問う問題では、85.6%で目標値と比較して5.6ポイント高くなっている。 ●180度より大きい角の大きさの見当をつける問題では、63.3%で、目標値と比較して6.7ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさを実際に測定する体験的な活動に多く取り組ませることで、身近にあるもののおおよその大きさを理解できるようにする。 ・日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、46.9%と目標値と比較して5.6ポイント低い。 ○「いろいろな形」の直方体のある面と垂直な辺を選ぶ問題では、78.9%で目標値と比較して8.9ポイント高くなっている。 ●平行四辺形を作図する問題では、44.4%で、目標値と比較して15.6ポイント低く、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の学習では、三角定規やコンパス、分度器の使い方を丁寧に指導する。また、作図に必要な基礎的技術の定着を図るために、作図する問題に取り組みさせる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、68.9%と目標値と比較して同程度である。 ○「計算のきまり・変わり方調べ」の伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では92.2%、伴って変わる2つの数量の関係を式に表したりする問題では、65.6%で、それぞれ目標値と比較して7.2ポイント、10.6ポイント高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフに分類整理したものを分析することやそこから読み取った事柄を話し合う活動を取り入れた成果であると考えられる。今後も、普段から算数の学習の中で気付いたことを表現する場面を設けるように心掛ける。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の目標値と本校の状況

分類	区分	本年度	
		本校	目標値
領域等	物質・エネルギー	60.6	61.8
	生命・地球	67.3	67.9
観点	自然事象への関心・意欲・態度	47.8	43.3
	科学的な思考・表現	60.2	60.7
	観察・実験の技能	62.6	60.8
	自然事象についての知識・理解	67.2	68.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、60.6%と目標値と比較して同程度である。 ○電流の流れ方を理解する問題では、正答率が55.6%と目標値よりも10%以上高くなっている。 ○沸騰について理解する問題では、82.2%と高い正答率であり、目標値よりも7.2ポイント高くなっている。 ●水のあたたまり方をもとに示温インクの色の変化を推測する問題では、正答率が30.0%と低く、目標値と比較しても15ポイント下回った。 ●水を冷やしたときの体積の変化について理解する問題では、正答率が42.2%で目標値よりも22.8ポイントも下回る結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の際に、ただ結果を確認するだけでなく、なぜそうなったのか理由を説明できるように、原因と結果を確認したり、話し合ったりしながら取り組むようにする。 ・「物の体積と温度」や「物のあたたまり方」に関する問題の正答率が低かったので、実験結果をあらためて確かめさせたり、フォローアップシートを活用したりして、復習を行う。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、67.3%と目標値と比較して同程度である。 ○関節のある場所がわかる問題では、94.4%と高い正答率であり、目標値よりも9.4ポイント高くなっている。 ●月の動き方を理解する問題では、正答率が54.4%であり、目標値よりも20.6ポイントも下回る結果となった。 ●筋肉について理解する問題では、正答率が66.7%であり、目標値よりも13.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を効果的に活用し、観察についての理解を深められるようにする。 ・体のつくりについては、他教科との関連を図ったり、自分の体に関心をもたせたりしながら、関連付けて学習を進め、理解を深められるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の復習をしている」、「家で、学校の授業の予習をしている」と肯定的に答えた児童の割合は、市と比べて15ポイント高く、自主学習が定着してきた。学校内で共通理解を図って取り組んできた成果が表れている。

○「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」と肯定的に答えた児童の割合は、市と比べて7ポイント高く、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」と肯定的に答えた児童の割合は、84.5%と高い割合であり、意欲的に学習に取り組んでいる姿が見られる。

○「誰に対しても思いやりの心をもってせっている」、「人と話すことは楽しい」、「学校の決まりを守っている」、「家の決まりや約束を守っている」と肯定的に答えた児童の割合は、どれも9割を超えている。規範意識が育ち、友達と良好な人間関係を築くことができている。学校全体でルールを守ることの大切さを共有したり、認め励ます教育に取り組んできたりした成果が表れている。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「クラスは発言しやすいふん囲気である」と肯定的に答えた児童の割合は、市や県と比べて7～11ポイント低い。コロナ禍の影響もあると思うが、自分の考えを話すことで相手に伝えるということに対して苦手意識をもっている児童が多い傾向がある。対話による深い学びの実現のためにも日頃から対話する機会を増やして児童の苦手意識の軽減を図っていきたい。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」については、市より7ポイント下回っており、学習したことを生活の中で有効活用していくことに課題が見られる。授業の中で具体的な例示をしたり、家庭生活の中で活用できる場面がないか想起させたりして学習と日常生活が身近なところで結び付いていることを意識させたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力向上に向けた指導の工夫	・説明文での読み取り方の手立てや指導法の研究による授業作り ・読解力を付けるための語彙・文法の基礎の定着を図った朝の学習でのプリント学習 ・読書の推進	国語の「読むこと」の領域に関して、4・5年生ともに目標値よりも高い。
主体的に学習に取り組む児童の育成	・授業のねらいを明確化し、児童に分かる「めあて」の設定と、授業の終末に理解度や自分の変容を確認する「振り返り」の時間の確保	質問紙の結果から、4・5年生ともに、「めあて」「振り返り」に関する項目では、肯定的回答の割合が、市や県の平均と比べて高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の調査結果から、指定された長さで文章を書く問題では、正答率が目標値よりかなり低くなっている。	条件に応じた作文力の育成	授業での意図的な指導だけでなく、朝の学習や家庭学習を利用して、条件を指定して文章を書く作文学習を低学年から取り入れていく。
考えを説明したり、書いたりする問題の正答率が低く、また無答者も多くなっている。 ・国語(作文・記述式) ・算数(説明) ・理科(説明)	考えを説明したり書いたりする表現力の育成	授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士伝え合ったりするなど、表現する場を意図的に位置付ける。